

エコロジーの思想

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、さまざまなタイプのエコロジー思想を概括することを通じて、生産・消費・運輸交通・廃棄などの人間活動が現在どのような問題に直面させられているか、どのように方向転換すればよいのか、などを考えていくことにしたい。そして、そうした問題を「思想の問題」として考えることは、受講生それぞれの自分の問題として考えること、「生き方」を問い直すことである。当然ながら、その解答は多様であり、一つではない。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、エコロジーとは何か
2	成績評価について、問題を自分の問題とすることについて
3	エコロジー思想の諸タイプ
4	シャロウ・エコロジーとディープ・エコロジー
5	エコロジーは技術によって実現可能か
6	ソフト・エネルギー論
7	伝統的社会や宗教の価値観を問い直す
8	「便利」で「快適」な生活は、われわれに何をもたらすのか
9	産業化社会の何が問題か
10	エコ・マネーは未来を救うか
11	エコロジカルな生き方とは何か
12	情報化社会の問題
13	スピード化社会、自動車社会の問題
14	まとめ：人類の未来と持続可能性
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。

【評価方法】

基本的にはレポートによって成績を評価する。途中で課題を出すこともする。課題の評価は、レポート評価に上乗せする。出席点は、成績に考慮しない。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店1998年
尾関・亀山・武田『環境思想キーワード』青木書店2005年

【参考文献】

芸術学ゼミ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミでは、芸術学の主要分野である美術史の領域において、美術史の方法論の展開から現代アートまでを概観する。さらに各々の研究課題を設定し、調査し、解釈学や記号論といった視点から作品の特色・意義を学ぶことができる。

*芸術学とは、美術、映像、音楽、演劇、建築などを指す。

【授業の展開計画】

目標：

1. 各芸術領域の史学、特性を説明することができる。
2. 各々の研究分野を設定し、その調査、分析を行うことができる。
3. 研究成果を発表・評価・改善することができる。

授業の流れ：

- 1回目：自分マップ作成(Who am I ?)
- 2日目：自分マップ作成(Who am I ?)
- 3回目：自分マップ発表(Who am I ?)
- 4回目：研究課題調査・設定
- 5回目：研究課題調査・設定
- 6回目：研究課題調査・設定
- 7回目：研究課題調査・設定
- 8回目：研究課題中間報告
- 9回目：研究課題中間報告
- 10回目：研究課題に関するフィールド調査
- 11回目：研究課題に関するフィールド調査
- 12回目：研究課題に関するフィールド調査報告
- 13回目：研究課題に関するフィールド調査報告
- 14回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成
- 15回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成
- 16回目：フィールド調査報告・修正を踏まえて企画書作成・発表

【履修上の注意事項】

履修者は、本学が提供している芸術関連科目を既に受講している者が望ましい。

【評価方法】

1. 研究に対する取り組み、出席状況
2. 研究内容の完成度
3. 授業・態度、発表状況

【テキスト】

美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）を適宜配布

【参考文献】

西洋美術の読み方（パトリック・デ・リンク 創元社）、日本の美術（辻惟雄 東京大学出版会）自己表現メソッドクリストフ・アンドレ 紀伊國屋書店）など、他多数

芸術学 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながら学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割なども習得することができる。講義の到達目標は次のようになる。

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することができる
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することができる
3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 3週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 4週目 エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品
- 5週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 6週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 7週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 8週目 中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 世界の美術館紹介
- 11週目 世界の美術館紹介
- 12週目 特別講義（芸術関係者による講義）
- 13週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 14週目 北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメ、資料を配布する

【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

芸術学Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

芸術学Ⅱでは、芸術学Ⅰで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、音楽、演劇、写真）メディアを幅広く学ぶことができる。講義の到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することができる
2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の特徴を説明することができる
3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明できる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（美術・芸術に関するテスト）
- 2週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 3週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 4週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（写実主義）
- 5週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（ロマン主義）
- 6週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義）
- 7週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（印象主義）
- 8週目 特別講義（博物館/美術館学芸員）
- 9週目 中間試験（習得度確認/フィードバック）
- 10週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 11週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 12週目 ルネサンス後の西洋美術の動向と潮流（後期印象主義）
- 13週目 現代芸術（芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の動向と潮流）
- 14週目 現代芸術（芸術メディア（音楽、演劇、写真など）の動向と潮流）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

芸術学Ⅰを習得したものが望ましい

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメ、資料を配布する

【参考文献】

1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、2. 美術検定

コミュニケーション論

担当教員 伊礼 武志

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間のすべての社会関係はコミュニケーションによって成立し、人間関係の良否はすべてコミュニケーションの善し悪しに依存するのである。本講義においては初めに、人間社会におけるコミュニケーションの役割と重要性について説き、次に、その性質と機能について述べ、最後にコミュニケーション・メディアとしての言語シボルと非言語シボルについて、その文化的背景や構造および特徴などについて学ぶ。なお、コミュニケーションはそのレベルに基づいてさまざまに類型化されるが、本講義においては特に、インターパーソナル・コミュニケーションに焦点を当てて学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	インターパーソナル・コミュニケーションの概念
2	人間のコミュニケーション
3	シンボリック相互作用論
4	コミュニケーションの類型
5	インターパーソナル・コミュニケーションのモデル
6	インターパーソナル・コミュニケーションの効果
7	インターパーソナル・コミュニケーションの効果の規定要因
8	効果的なインターパーソナル・コミュニケーションのための包括的な指針
9	インターパーソナル・コミュニケーションにおける知覚の問題
10	自己概念の形成
11	インターパーソナル・コミュニケーションにおける自己知覚
12	インターパーソナル・コミュニケーションにおける自己開示
13	言語コミュニケーション
14	非言語コミュニケーション
15	効果的なインターパーソナル・コミュニケーションの展開
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

双方通行的な授業（two-way communication）を行うので、学習意欲のある受講生を求む。

【評価方法】

授業への出席状況（70%）、授業への参加姿勢（20%）、レポート（10%）とし評価する。

【テキスト】

伊礼武志 著「インターパーソナル・コミュニケーション論」（サン印刷）

【参考文献】

D.K. バーロ 著、布留武朗、阿久津善弘 訳「コミュニケーション・プロセス」（共同出版）
伊礼武志 著「組織コミュニケーション論」（サン印刷）

心理学ゼミ

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

卒業研究の前段階として、心理学系の文献の探し方から始めて、研究計画の立案の仕方までを目指します。前期は、文献検索、文献発表の仕方、文献の批判的読み方について主に学んでいきます。後期前半は、社会的な問題や話題を1つ取り上げ、そのトピックについて全員でディベートないしディスカッションを行う予定です。後期の後半は、心理学文献のグループ発表と全員討議を通して、科学的な研究の仕方・考え方を学んでいきます。授業全体を通して、受講生の批判的思考力、プレゼンテーション力、傾聴力をトレーニングしていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション	17	社会的なトピックについての～入門
2	心理学系の文献とは、どのようなものか？	18	社会的なトピックについての～(1)
3	心理学系の文献は、どのように探せばよいか	19	社会的なトピックについての～(2)
4	ゼミ発表に用いる文献の説明&文献検索実習	20	社会的なトピックについての～(3)
5	文献レポートは、どのように行えばよいか？	21	社会的なトピックについての～(4)
6	学術論文の読み方トレーニング①	22	学術論文の読み方トレーニング
7	学術論文の読み方トレーニング②	23	心理学専門書のグループ発表・全員討議(1)
8	心理学入門書のグループ発表・全員討議(1)	24	心理学専門書のグループ発表・全員討議(2)
9	心理学入門書のグループ発表・全員討議(2)	25	心理学専門書のグループ発表・全員討議(3)
10	心理学入門書のグループ発表・全員討議(3)	26	心理学専門書のグループ発表・全員討議(4)
11	心理学入門書のグループ発表・全員討議(4)	27	心理学専門書のグループ発表・全員討議(5)
12	心理学入門書のグループ発表・全員討議(5)	28	心理学専門書のグループ発表・全員討議(6)
13	心理学入門書のグループ発表・全員討議(6)	29	心理学専門書のグループ発表・全員討議(7)
14	心理学入門書のグループ発表・全員討議(7)	30	卒業研究計画の個人発表/卒業計画書作り方
15	後期に向けての課題提示	31	卒業研究計画書の作り方演習
16			

【履修上の注意事項】

- ・授業への積極的な参加（個人レベルでの質問や発言）を求めます。
- ・授業の展開計画は、受講者数等によって変更する可能性があります。

【評価方法】

・成績評価は、授業への出席状況と参加態度（質問、発言の質・量なども含む）、発表の仕方や態度（レジュメの出来映えも含む）を、総合して行います。

【テキスト】

教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜、資料を配布します。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人が人として生きていく中で、自分や他者の心や行動を理解することは大切なことだと思います。人が自分や他者の心や行動を理解しようとする時、そこでは心理学者になっていると言えるかもしれません。しかしながら、その理解の仕方は多くの場合、個人的な経験則や直感に基づく主観的なもので、科学的・客観的な理解とはかけ離れたものになりがちです。本講義では、心理学における知覚・学習・記憶・認知・感情等をテーマとして取り上げ、なるべく日常的な話題から、人の心や行動について理解を深めていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明
2	心理学とは何か？～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～
3	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(1)～
4	人は世界をどのようにとらえるのか？～知覚の心理学(2)～
5	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(1)～
6	人はどのようにして学ぶのか？～学習の心理学(2)～
7	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(1)～：覚えること・思い出すこと
8	人の記憶とはどのようなものか？～記憶の心理学(2)～：記憶を促進・妨害する事柄
9	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(1)～：心の働きと脳の構造・機能
10	脳と心はどのような関係にあるのか？～脳と心(2)～：脳損傷や薬物の影響を中心に
11	わかるとは何か？～認知の心理学(1)～：理解すること
12	わかるとは何か？～認知の心理学(2)～：考えること
13	何が人を動かすのか？～情動の心理学～
14	何が人を動かすのか？～動機付けの心理学～
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ・心理学Ⅱを未履修であっても受講可能です。
- ・希望者が多い場合は、上級学年の履修を優先する形で抽選を行う予定です。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。
- ・授業の展開計画は、変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・評価の内訳は、出席状況が15%、参加態度が30%、学期末試験が55%のウェイトです。
- ・授業への出席状況、参加態度、学期末試験を総合して評価する予定です。但し、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回の講義内容に関するリアクション・ペーパー（感想・質問・意見等を述べたもの）の提出および、その内容によって評価します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人の心や行動について科学的・客観的な視座から学ぶことを通して、自己・他者・社会について多面的な理解ができるようになることを目指します。本講義では、なるべく日常生活と関わりの深い心理学的事象（パーソナリティ、心の成長と発達、人間関係、心のトラブルなど）を取り上げ、それらの事象が、どのような理論や方法によって心理学的に研究され、説明されているのかを概説します。なお、心理学の学問領域としては、パーソナリティ心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学に該当する部分を学ぶこととなります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明
2	心理学のイメージと実際～ポップな心理学とアカデミックな心理学の相違～
3	人のパーソナリティ（性格）とは何か？～パーソナリティ心理学(1)～
4	人のパーソナリティ（性格）とは何か？～パーソナリティ心理学(2)～
5	人が成長・発達するとは、どういうことか？～乳児期・幼児期の発達心理学～
6	人が成長・発達するとは、どういうことか？～思春期・青年期の発達心理学～
7	人が成長・発達するとは、どういうことか？～成人期・老年期の発達心理学～
8	自己・自分とは、いったい何か？～社会心理学(1)～
9	人はどのようにして他者を理解し、他者と関わるのか？～社会心理学(2)～
10	人は、他者・社会からどのような影響を受けるのか？～社会心理学(3)～
11	心のトラブル～心の健康・不健康とストレス、心理的障害とは？～
12	心のトラブル～心理臨床・カウンセリングの対象となる心の病とは？～
13	心のトラブル～心理療法・カウンセリングとは、いったい何をするのか？～
14	心理学の知見や考え方は社会生活に役立つのか？～心理学の実践と応用～
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ・心理学Ⅰを未履修であっても受講可能です。
- ・希望者が多い場合は、上級学年の履修を優先する形で抽選を行う予定です。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。
- ・授業の展開計画は、変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・評価の内訳は、出席状況が15%、参加態度が30%、学期末試験が55%のウェイトです。
- ・授業への出席状況、参加態度、学期末試験を総合して評価する予定です。但し、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に、毎回の講義内容に関するリアクション・ペーパー（感想・質問・意見等を述べたもの）の提出および、その内容によって評価します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

女性と文化

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

文化を通して女性のあり方を考える。文化的性差である「ジェンダー」はどのように文化の中にあるのか。女性史研究、文化人類学の視点から男の文化・女の文化を考える。

【授業の展開計画】

- 1 週目 ジェンダーとは何か 文化的性差の概念
- 2 週目 女性研究学説史① 女性の文化研究
- 3 週目 女性研究学説史② フェミニズム人類学とそのテーマ、マイノリティー研究から
- 4 週目 沖縄の女性研究
- 5 週目 女性と婚姻 婚姻システム
- 6 週目 婚姻システム②—問われる産む性—
- 7 週目 生む性～母性・子供の発見～
- 8 週目 ケガレ・聖観 管理される身体①
- 9 週目 文化に管理される身体②「神と呼ばれた少女」ネパール・クマリ信仰
- 10 週目 文化に管理される身体③ ケガレなき女性の文化・神女
- 11 週目 文化に管理される身体④ 身体加工（アフリカほか）、人権と文化
- 12 週目 沖縄の女性—婚姻・離婚（戦後沖縄と祖先祭祀と女性問題）
- 13 週目 沖縄文化と女性—近世琉球の女性と近現代の女性の婚姻
- 14 週目 沖縄文化と女性—近代 風俗改良 風土と文化（ハジチ、琉葬から和装、金属・簪）
- 15 週目 沖縄文化と女性—文化表象（博覧会、美術、工芸）
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用する。

【参考文献】

重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

女性と歴史 I

担当教員 宮城 晴美

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

私たちは中学校・高校で世界史や日本史を学んできましたが、沖縄の歴史について教わる機会は非常に少なかったと思います。ましてや、女性の歴史を学ぶことはほとんどなかったのではないのでしょうか。

この授業は、琉球王国時代から明治の琉球処分を経て今日に至るまでの沖縄近現代史をベースに、時代によって女性たちの“主体性”がどう変化してきたか（変化させられたか）について、私たちの身近に起こる「人権問題」を含め、ジェンダーの視点で考察します。

【授業の展開計画】

新資料の入手などで、テーマが変わることもあります。

- 1 インTRODクシヨン
- 2 琉球王国の女性 —ノロ制度と御内原—
- 3 公娼制度下の辻遊廓
- 4 女子教育と「同化」への助走 —第一波風俗改良運動—
- 5 「ソテツ地獄」の沖縄 —貧困・差別と闘った女性たち—
- 6 「内なる日本化」—第二波風俗改良運動—
- 7 「銃後」の女への総動員 —女子青年団、婦人団体の結成
- 8 沖縄戦の基礎的学習—ビデオ鑑賞
- 9 「集団自決」のジェンダー分析と「記憶」の抗争
- 10 女性の政治参加 —世界的潮流のなかで—
- 11 沖縄の戦後政治体制と女性たち
- 12 軍隊の構造的暴力と性犯罪
- 13 「島ぐるみ」土地闘争と女性
- 14 起ち上がった女性たち
- 15 「トートーメー」（位牌）継承の歴史と沖縄の慣習
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

できるだけパワーポイントやビデオなど、適宜ビジュアルな資料を使って授業を進めるようにするが、話の途中でわからない（わかりにくい）ことがあれば、積極的に質問して内容を理解してほしい。

【評価方法】

出席を重視する。授業終了後のリアクションペーパーの提出、テストなどによって加点方式で評価する。

【テキスト】

毎回、レジュメ、資料を配付する。

【参考文献】

那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（前近代編・近代編・戦後編）』那覇市、1998年～2001年）／外間米子監修『時代を彩った女たち』ニライ社、1996年／他随時紹介

女性と歴史Ⅱ

担当教員 新木 順子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は西洋の歴史のなかで女性達がどういう状況におかれ、どう生きたか、なぜそうであったのかについて、社会的文化的背景をも含めて見ていこう。女性たちの歩みは苦闘に満ちたものであり、その結実を現代の私達は様々に享受している。各国女性の生きた足跡を概略する事で、今日の男女を取り巻く諸問題や西洋との違いと共通点などを、改めて問いかける契機になればと思う。

【授業の展開計画】

- ・講義の概略について
- ・古代ギリシャの女性の地位、持参金付結婚
- ・キリスト教の女性像ー女性の祖エバ、イエスの母マリア、娼婦？マгдаラのマリア
- ・中世ー貴婦人と恋愛、聖女、魔女と魔女狩り
- ・産業革命とイギリス女性労働者、ヴィクトリア時代の女子教育
- ・フランス革命と女性の権利宣言
- ・ナチズム政権と「民族の母」
- ・アメリカフェミニズムの興隆
- ・国際社会の動き、女子差別撤廃条約の採択（0979年）
- ・先進国北欧にみる女性政策
- ・テストの実施あるいはレポートの説明

（注）講義の進み具合によっては、時間配分や内容などに関して若干の変更がありますのでご了承ください。

【履修上の注意事項】

私語は厳禁です。

【評価方法】

出席は加味します。

【テキスト】

レジメを配布します。

【参考文献】

講義の際に紹介します。

哲学ゼミ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「哲学ゼミ」は共通科目ですが、講義でなく、少人数で自由にディスカッションしながら、哲学の問題を考えようとする学生のために設けられています。ゼミで考える問題も、テキストを読む場合にはテキストも、受講生から自由に提案してもらいながら、進める予定です。昨年は映画を見て、それを元にディスカッションする授業も行いました。哲学という学問は、突き詰めて言うと「人間の生き方」を問うところに特徴があります。みなさんと一緒に「どう生きたらいいのか」を考えていければ、と思います。

【授業の展開計画】

共通科目の哲学ゼミは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、さまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざす少人数の演習科目です。議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。議論の具体的なテーマ、素材とする文献、映像、フィールド・ワークなども基本的には参加者と相談して決定します。第1回にオリエンテーションをおこない、具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについては第2回の授業で参加者と相談して概要を決めます。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

参加者と相談して決めます。

【参考文献】

哲学 I

担当教員 大城 信哉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

哲学は抽象的で馴染みにくいと思われがちな学だが、講義ではできるだけ身近なところに材料を取り、受講者諸氏の関心と接点を探るようにしたい。本講座では哲学のうち、我々の知識が正しいかどうかを検討する認識論（なぜ幽霊は科学的探究の対象にならないのか、など）と、ものがあるとはどういうことか、同じひとつのものであることの意味は何か（なぜ子供のときのあなたと大学生になったあなたと同じ人だと言えるのか、など）を検討する存在論について考えてみる。ここで学んだことが、受講者諸賢の今後の研究に役立つことを祈っている。

【授業の展開計画】

予定は以下のとおりだが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか聞いたら、そちらを優先することも考えている。希望があれば、言ってほしい。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション 哲学という学の紹介。および受講者諸君との合意作り
2	哲学とは何か (1) 哲学が何を目指してきたか、少し歴史を覗いてみよう
3	哲学とは何か (2) 前回のつづきで、もう少し歴史に付き合ってみる
4	哲学の諸部門 現代の観点で、哲学を部門分けしてみる
5	認識論 (1) 認識について考える。我々は何を知りうるか
6	認識論 (2) 逆に考えてみる。我々は何を知りえないか
7	認識論 (3) 近代は認識論の時代だといわれる。それはなぜか
8	認識論 (4) 科学について考えてみる。科学とは何か
9	認識論 (5) 今度は非科学についても考えてみよう
10	存在論 (1) 認識論から存在論へ。実は哲学にもはやりすたりがある
11	存在論 (2) ものが「ある」とはどういうことか考えてみる
12	存在論 (3) 「～がある」と「～である」は、どういう関係だろうか
13	存在論 (4) 「私」が「私」であるとは、どういうことだろうか
14	存在論 (5) 「私」が「私」でなくなる時について
15	まとめ 哲学という学の手触りが判ったか、確認してみよう
16	テスト 楽しめるように祈っている

【履修上の注意事項】

哲学についての知識の有無は問わないが、積極的に参加してほしい。
受講者の人数にもよるが、こちらから諸君に質問することもあるだろう。
主体的な参加を望む。

【評価方法】

最終回に試験をするつもりだが、これも第1回で別の希望が出たら考慮する。
出席も取るが、これは単位取得の最低条件で、ただ教室にいたら良いというわけではない。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

問題ごとに、必要に応じて教室で指示する。

哲学Ⅱ

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、「人間の行為はある価値意識によって支えられ、生み出されているとすれば、その価値は何に由来するか」という問題を考えてみたいと思います。その際、できるだけ現実に即して具体的に問題を考えることにします。すなわち、現代の産業化社会における人間のあり方、とりわけ労働疎外、大衆社会、消費生活、自然との共生、男女の共生、情報化社会におけるコミュニケーションなどを問い直す形で考えたいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、哲学とは何か
2	成績評価、受講上の注意
3	行為とは何か
4	価値とは何か
5	産業化社会のメカニズム
6	経済的価値の由来
7	産業労働とお金
8	労働疎外
9	物象化とフェティシズム
10	消費社会の便利さと豊かさ
11	自然の価値を考える
12	共生社会とは
13	「持つ様式」と「する様式」
14	ほんとうの生きがいとは何か
15	受講生の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 哲学Ⅰを履修していない人でも受講できます。
- (2) 私語・居眠りは、教室の外に出てもらいます。
- (3) 質問を積極的に行なってください。
- (4) 問題を自分の頭で考えること。
- (5) たくさん本を読むこと。

【評価方法】

レポートの内容で基本的には成績評価します。途中で課題を出すこともあります。課題の評価は、レポートの評価に上乘せします。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

【参考文献】

フロム『生きるということ』『人間における自由』、マルクス『経済学・哲学草稿』、森岡孝治『働きすぎの時代』岩波新書、河邑厚徳『エンデの遺言』NHK出版、イリイチ『シャドウ・ワーク』岩波現代文庫

フェミニズム思想

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国でも1999年に「男女共同参画社会基本法」が制定されて以降、男女平等の実現がようやく本格的に取り組み始めましたが、残念ながら現実には、いまだに女性差別や抑圧がまだまだ横行しています。この講義では、その問題を思想の問題として、フェミニズムがどのように捉えてきたかを、歴史をひもときながら考えていきます。受講生のみなさんは、少しでも多くの本を読んで、自分の頭で考える習慣を身につけてください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要、受講上の注意
2	試験・成績評価について
3	フェミニズムとは
4	フェミニズムの諸潮流
5	ウルストンクラフト『女性の権利の擁護』
6	J・S・ミル『女性の隷属』
7	エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』
8	E・ケイ『恋愛と結婚』
9	ポーポワール『第二の性』
10	ファイヤストーン『性の弁証法』
11	イリイチ『シャドウ・ワーク』『ジェンダー』
12	M・ミース『世界システムと女性』
13	日本のフェミニズム
14	現代とフェミニズム
15	受講者の感想・評価とレポート提出
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 私語・居眠りは教室の外に出てもらいます。
- (2) 質問を積極的に行なってください。
- (3) 問題を自分の頭で考えようとする人を希望します。
- (4) 女子学生だけでなく、男子学生も積極的に受講してください。

【評価方法】

基本的にレポートで評価します。レポート以外に、課題を出すこともあります。課題提出者はレポートに上乘せして評価します。

【テキスト】

武田一博『市場社会から共生社会へ』青木書店、1998年

【参考文献】

大越愛子『フェミニズム入門』ちくま新書1996、江原・金井『フェミニズム』新曜社1997、江原・金井(編)『フェミニズムの名著50』平凡社2002、ダイヤモンド・オレンスタイン『世界を織りなおす』学芸書林1994

文学 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文学 I」では、ドイツの「叙情詩」を中心に抗議します。ゲーテの詩が多くなります。現代の詩まで取り上げる予定です。まずは詩形式について述べ、成立した背景や民俗的、社会的背景などについて述べます。

できるかぎり、学生たちにも知っていると思われる詩歌を取り上げたい。リストやモーツァルト、特にシューベルトの作曲によってドイツリートとして親しまれているものも多い。リートを聴いて、言語は「音」であることを、ドイツ語の韻律の美しさを感じることによって知ってほしい。何よりも「文学」の楽しさが伝わることを願う。

【授業の展開計画】

厳密な「展開計画」はできていない。講義で取り上げる作品を並べることとする。

「五月の歌（祭）」（Maifest）、「野バラ」、「スマレ」、「トゥーレの王様」、「魔王」、「魔法使いの弟子」、「以上、ゲーテ。

「歓喜の歌」、「手袋」、シラー。

「ローレライ」、「敵弾兵」、以上、ハイネ。

「おやすみ」、「菩提樹」、以上、ミュラー『冬の旅』より。

「ぼくは君を愛する」、ヘロッセー。

「誠実な愛」、シェジー。

「ローマの噴水」、リルケ。

「詩のフーガ」、ツェラーン。

そのほか、「聖しこの夜」、「リリー・マルレーン」、「99個の風船」など。

【履修上の注意事項】

文学、音楽、特にクラシック音楽に興味のある学生の履修を望む。私語は厳禁。遅刻も無断欠席もしないこと。出席をとります。

【評価方法】

期末試験をする。出席も加味する。再試や追試を行わない。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

文学Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文学Ⅱ」では、ドイツの戯曲を中心に講義します。
ハインリヒ・ハイネの『ドイツ古典哲学の本質』に依拠して、ドイツ近代文学の始まりといえるマルチン・ルターについて、特に、その聖書翻訳について口述する。その後、レッシング、シラー、ゲーテの文学論と戯曲を取り上げる。できれば、ブレヒトの演劇との対比によって、現代の演劇との相違点も考えたい。
舞台上でどのように演じられているのか、思い描けるような想像力を喚起できるように願っている。

【授業の展開計画】

「授業展開計画」はできていない。講義で取り扱う作品や対象を並べることにする。
ハインリヒ・ハイネ『ドイツ古典哲学の本質』（岩波文庫）より、「宗教改革」と「ルター」。
「啓蒙主義」について。レッシング、『ラオコーン』、『賢者ナータン』。
シラー、『素朴文学と情感文学』、『マリア・スチアルト』。
ゲーテ、『ファウスト』。

【履修上の注意事項】

上記の作品や文学論は、岩波文庫や文学全集などに翻訳があるものもある。『ファウスト』は現在なお、新訳が出ている。できるかぎり、上記の作品を翻訳で読むようにしてください。また、ノートを用意して、内容を筆記すること。私語は厳禁。遅刻も無断欠席もしないこと。出席をとります。

【評価方法】

期末試験を行う予定にしている。5回以上無断欠席をしたものは受験資格はない。追試や再試も行わない。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布します。

【参考文献】

平和と文化

担当教員 吉川 由紀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄、平和、戦争、生きることなどをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け理解する力を蓄える。

【授業の展開計画】

講義とともに映像・画像の視聴を行う。また、現場で活動している人の報告や体験者の証言を聴く機会を数回も受ける。

- 1 隣で生きている人の”歴史”に耳を傾ける
- 2 沖縄戦体験者の声を聴く、記録する
- 3 慰霊塔（慰霊碑）の声を聴く
- 4 死者の声を聴く① 戦争遺跡を通して
- 5 死者の声を聴く② 遺骨収集の現場から
- 6 「対馬丸」に学ぶ① 概要
- 7 「対馬丸」に学ぶ② 資料を読む
- 8 「対馬丸」に学ぶ③ 体験者の証言を聴く
- 9 証言を取り巻くいま
- 10 加害と被害を抱えて生きる 満州移民の歴史をどう受けつぐか
- 11 子どもたちの平和 情緒障害児と向き合う大人をとおして
- 12 ”ハンセン病”の歴史を糧に① 概要
- 13 ”ハンセン病”の歴史を糧に② 『沖縄県ハンセン病証言集』を読む
- 14 ”ハンセン病”の歴史を糧に③ 病を生きるということ
- 15 ”ハンセン病”の歴史を糧に④ 回復者の証言を聴く
- 16 まとめ

【履修上の注意事項】

県内外・国内外を問わず戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学し、書物（証言集なども含む）に目を通すこと。

【評価方法】

出席状況とレポート（最初の授業でテーマを発表）を総合して行う。

【テキスト】

特に指定はしない。毎回、レジュメを配布する。視覚教材のビデオを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年
 『新版ライフヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年
 その他は、講義の中でその都度紹介する。

倫理学ゼミ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学ゼミは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、人間のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざす少人数の演習科目です。

議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。議論の具体的なテーマ、素材とする文献、映像、フィールド・ワークなども基本的には参加者と相談して決定します。

【授業の展開計画】

具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについては第2回の授業で参加者と相談して概要を決めるので、下記は一例（イメージ）。

半期に1回は具体的な議論のテーマや議論の素材を参加者それぞれに提案してもらいます。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	映画「最高の人生の見つけ方」
2	テーマ、素材の決定	18	人生のチェック・リスト
3	倫理(学)とは	19	テーマA、B
4	いかに生きるか(ビデオ)	20	テーマC、D
5	ディスカッション	21	テーマE、F
6	人間の本質(ビデオ)	22	テーマG、H
7	ディスカッション	23	なぜ死んではいけないか(1) ビデオ
8	テーマA、B	24	なぜ死んではいけないか(2) 調査
9	テーマC、D	25	なぜ死んではいけないか(3) 討論
10	テーマE、F	26	人間と自然の関わり
11	テーマG、H	27	フィールド・ワーク「風土のエチカ」(1)
12	園芸療法・園芸福祉・社会園芸	28	フィールド・ワーク「風土のエチカ」(2)
13	フィールド・ワーク「園芸福祉」(1)	29	ディスカッション
14	フィールド・ワーク「園芸福祉」(2)	30	後期のまとめ
15	ディスカッション	31	
16	前期のまとめ		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

参加者と相談して決めます。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

倫理学 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義でも、講義担当者が教科書に沿って通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。内容としては倫理の前提となる自由の問題を現代における自己決定の現状と課題の検討を中心に考察する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。★

【授業の展開計画】

テキストの第1部と第2部の一部の内容をテーマに、「ともに考える」という事を授業の中核にすえる。具体的には、その回のテーマについてA、B、二つのやり方で授業を進める。

A. ①小レポートを全員に書いてもらい②何人かの学生にはそれに基づく発言を求め③講義担当者も交えて質疑応答を行う。小レポートは各自B5Eの紙製フラットファイルにとじる。発言や質疑応答も発言記録票にその内容を発言者が記載の上このファイルにとじる（講義担当者が押印）。小レポートは授業の素材として用いる。

B. ①10名程度の小グループにわかれてそれぞれ議論し結論をまとめ発表し、②それぞれの結論について他のグループが検討しコメントをつけ、③発表、コメント、質疑応答というかたちでクラス全体で問題を議論する。発表原稿、コメント、質疑応答、グループ内の役回りなどの記録は分担してグループごとに行う。

1. オリエンテーション(出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位を取得できない)
- 2-3. 自由にはどのようなかたちがあるのか
4. 自由と倫理はどのようにかかわっているのか
- 5-7. 自由のパラドックスにはどのようなものがあるのか
- 8-12. 自己決定の現状はどうなっているか/ 自己決定の何が問題なのか
- 13-14. 「自己」とはどのような存在なのか
15. まとめのレポート。
16. テキストの重要概念に関するテストをおこなう。

【履修上の注意事項】

小レポートやグループ・ディスカッションのことなどを説明するオリエンテーションに必ず出席すること（出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位を取得できない）。B5Eの紙製フラットファイル(青色)を学内の浅野書房で購入して必ず準備すること（成績評価の基礎資料）。

【評価方法】

授業中に行うまとめのレポート（持ち込み不可）、20点
テキストの重要概念に関するテスト（持ち込み可）、40点
小レポート、発言記録票、グループ・ディスカッションの記録、40点

【テキスト】

小柳正弘『自己決定の倫理と「私ーたち」の自由』（ナカニシヤ出版）
B5Eの紙製フラットファイル(青色) =学内の浅野書房で購入すること。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

倫理学Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義でも方法としては講義担当者が教科書に沿って通説や自身の見解を紹介するのみならず受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。内容としては、自己決定の現状と課題を踏まえて、倫理の前提となる自由が、現代においてどのようなものであるべきかを考察する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。★

【授業の展開計画】

テキストの第1部の一部および第3部全体の内容を素材に、その回の授業のテーマについて、基本的には、(a)全員が小レポートを書き、何人かの学生がそれに基づいて発言し、講義担当者も交えて質疑応答を行う、というやりかた、または、(b)10名程度の小グループで議論(もしくは調査)して結論をまとめ発表し、他のグループや講義担当者と質疑応答・討論する、というやりかたで授業を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位を取得できない)。
2	自己決定の現状 概観
3	自己決定の課題 概観
4	「私たち」が「私」のことを決定していいのか(1) - パターナリズムの定式
5	「私たち」が「私」のことを決定していいのか(2) - パターナリズムの類型
6	「私たち」が「私」のことを決定していいのか(3) - 障害と自立
7	グループ・ディスカッション
8	「私」が「私たち」のことを決定していいのか(1) - モデルとしての技術者
9	「私」が「私たち」のことを決定していいのか(2) - 利害のトレード・オフとステイク・ホルダー
10	「私」が「私たち」のことを決定していいのか(3) - 自己決定の「標準」
11	グループ・ディスカッション
12	「私」と「他者」はどのように関わっているか(1) - 「共鳴」の事実
13	「私」と「他者」はどのように関わりうるか(2) - 「共鳴」の原理
14	グループ・ディスカッション-「私」と「他者」はどのように関わるべきか-「共鳴」の倫理
15	まとめのレポート
16	テキストの重要概念に関するテスト

【履修上の注意事項】

倫理学Ⅰを履修していることが望ましい。

小レポートやグループ・ディスカッションのことなどを説明するオリエンテーションに必ず出席すること(出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位を取得できない)。

B5Eの紙製フラットファイル(青色)を学内の浅野書房で購入して必ず準備すること(成績評価の基礎資料)。

私語は厳禁。質問は原則、授業中に行うこと。

【評価方法】

授業中に行うまとめのレポート(持ち込み不可)、20点

テキストの重要概念に関するテスト(持ち込み可)、40点

小レポート、発言記録票、グループ・ディスカッションの記録、40点

【テキスト】

小柳正弘『自己決定の倫理と「私」たちの自由』(ナカニシヤ)=前期の倫理学Ⅰと同じ
B5Eの紙製フラットファイル(青色)=学内の浅野書房で購入すること。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

歴史学ゼミ

担当教員 吉浜 忍

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

講座内容は、沖縄の歴史の基礎・基本を学びながら、フィールドワークを重視することで身近な歴史に触れる機会を多くもつ。さらにこのことを発展させて、地域の歴史調査を実施し、地域の歴史を掘り起こす。最終的にはこれらのことをふまえて自らが興味・関心ある歴史テーマを設定して調査研究することにより、歴史の醍醐味を知ることが目的である。自らがあるいはゼミ生が共同で地域の歴史を掘り起こすことにより、地域の歴史理解と認識を深め、歴史研究の基盤を育成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	調査研究テーマの設定
2	沖縄近現代史概説①	18	調査研究テーマの発表
3	沖縄近現代史概説②	19	フィールドワーク③
4	沖縄近現代史概説③	20	調査研究
5	フィールドワーク①	21	調査研究
6	沖縄近現代史概説④	22	調査研究
7	資料館見学①	23	資料館見学②
8	地域調査の視点と方法	24	調査研究の発表
9	地域調査	25	調査研究の発表
10	地域調査	26	調査研究の発表
11	地域調査	27	調査研究の発表
12	調査のまとめ	28	フィールドワーク④
13	調査のまとめ	29	フィールドワーク⑤
14	フィールドワーク②	30	後期の反省
15	前期の反省と課題	31	
16	後期ガイダンス		

【履修上の注意事項】

- (1)ゼミナール形式の授業なので、受講生の意欲的な取り組みが必要である。
- (2)フィールドワークや資料館見学、地域調査は講義の時間以外に行うことが多い。
- (3)県内で開催される歴史講演会や見学会等への積極的参加が求められる。
- (4)抽選となった場合は、初回ゼミの時間に面談の上、決定する。
- (5)「授業の展開」は、受講生の歴史意識や人数によって若干変更することもある。

【評価方法】

- | | |
|----------------------|-----|
| ①出席状況 | 20点 |
| ②取り組みの姿勢と態度・意欲 | 20点 |
| ③調査方法や報告内容 | 30点 |
| ④課題レポート | 30点 |
| ①+②+③+④=100点満点で評価する。 | |

【テキスト】

テキストとなる文献については適宜紹介する。

【参考文献】

参考文献については適宜紹介する。

歴史学 I

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄近現代史を教材に、歴史の見方・考え方、歴史を学ぶ意義や歴史の面白さ・楽しさに触れさせ、歴史認識を確かなものにする。教材はできるだけ身近な歴史事象を取り入れ、資(史)料・図版・写真などを豊富に使ったビジュアルなプリントを作成し、使用することで歴史に興味・関心を持たせる。さらに、それぞれのテーマ講義の歴史的な意味、重要な歴史用語などを理解させる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歴史への誘い
2	歴史地図の見方
3	地名の歴史
4	ペリーと琉球
5	謝花昇の時代
6	日露戦争と徴兵
7	皇民化教育①
8	皇民化教育②
9	移民と出稼ぎの背景
10	近代の交通
11	映像に見る近代の沖縄
12	沖縄戦前夜①
13	沖縄戦前夜②
14	沖縄戦前夜③
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- ①講義で配布するプリントがテキストになり、またテスト問題になるので、欠席しないこと。
 ②登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 ②課題レポート 10点
 ③テスト 70点 (テスト問題は基本的事項や重要用語の記述式と歴史認識の小論文を併用)
 ①+②+③=100点満点で評価する

【テキスト】

講義は毎回、テキストとしてプリント(一回の講義で3~5枚)を配布する。

【参考文献】

テキストに表記、また講義のなかで適宜紹介する。

歴史学Ⅱ

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄近現代史を教材に、歴史の見方・考え方、歴史を学ぶ意義や歴史の面白さ・楽しさに触れさせ、歴史認識を確かなものにする。教材はできるだけ身近な歴史事象を取り入れ、資(史)料・図版・写真などを豊富に使ったビジュアルなプリント作成し、使用することで歴史に興味・関心を持たせる。さらに、それぞれの講義テーマの歴史的な意味、重要用語などを理解させる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歴史への誘い
2	沖縄戦①
3	沖縄戦②
4	沖縄戦③
5	沖縄戦④
6	沖縄戦⑤
7	沖縄戦⑥
8	沖縄の戦後①
9	沖縄の戦後②
10	沖縄の戦後③
11	映像で見る戦後の沖縄
12	沖縄の戦後④
13	沖縄の戦後⑤
14	沖縄の戦後⑥
15	まとめ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- ①講義で配布するプリントがテキストになるので、欠席しないこと。
- ②登録上限数を上回った場合は、学科・学年を問わず抽選する。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 20点
 - ②課題レポート 10点
 - ③テスト点 70点 (テスト問題は基本的事項や重要用語の記述式と歴史認識の小論文を併用)
- ①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

講義は毎回、テキストとしてプリント (一回の講義で3～5枚) を配布する。

【参考文献】

テキストに表記、講義のなかでも適宜紹介する。

歴史学Ⅲ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、香辛料と茶という身近なものを話題とした近代ヨーロッパ政治史の講義である。しかし、近代のヨーロッパは、アジア・アフリカ・アメリカといった他地域との関係を通じて発展しているため、本講義では近代ヨーロッパにおける政治史の経緯を、非ヨーロッパ地域との関係をふまえて説明する。したがって、本講義では他地域との関係を通じた近代ヨーロッパ史の理解が最終目的となるが、歴史学は「暗記もの」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じた「歴史的なものの考え方」の修得も目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	香辛料のはじまりと地中海商人①
3	香辛料のはじまりと地中海商人②
4	「大航海時代」の到来とイベリア諸国①
5	「大航海時代」の到来とイベリア諸国②
6	スペインからオランダへ①
7	スペインからオランダへ②
8	スペインからオランダへ③
9	オランダとイングランドの対立①
10	オランダとイングランドの対立②
11	オランダとイングランドの対立③
12	「茶」を通してみるオランダ・イングランド①
13	「茶」を通してみるオランダ・イングランド②
14	イングランドにおける「茶」文化①
15	イングランドにおける「茶」文化②
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義を履修するための前提条件はない（歴史学Ⅰ・Ⅱを未履修でも本講義を受講できる）。
- ② 出席は毎回必ずとる。 ③ 評価とは関係なく、毎時間ワークシートの作成を実施する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

歴史学Ⅳ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、コーヒーを題材として、17～18世紀のヨーロッパ史、とくに近代思想の発展とイギリス、フランスの国内政治史との関係について理解することを目的とする。しかしこの場合、コーヒーの発祥地・イスラーム世界の理解が不可欠となる。そこで、イスラーム世界でコーヒーの果たした役割について説明した後、イギリス、フランス両国におけるコーヒーと近代思想、国内政治との関係を講義する。また、歴史学は「暗記もの」ではなく「考える学問」なので、ワークシートの作成を通じて「歴史的に考える」ことの育成も目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「コーヒー」の誕生
3	イスラーム世界におけるコーヒー①
4	イスラーム世界におけるコーヒー②
5	イスラーム世界におけるコーヒー③
6	17世紀イギリスの思想と政治①
7	17世紀イギリスの思想と政治②
8	17世紀イギリスの思想と政治③
9	17世紀イギリスの思想と政治④
10	フランスへのコーヒーの流入と宮廷文化①
11	フランスへのコーヒーの流入と宮廷文化②
12	フランスの都市化と啓蒙思想、カフェ①
13	フランスの都市化と啓蒙思想、カフェ②
14	コーヒーと革命①
15	コーヒーと革命②
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義を履修するための前提条件はない（歴史学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを未履修でも本講義を受講できる）。
- ② 出席は毎回必ずとる。 ③ 評価とは関係なく、毎時間ワークシートの作成を実施する。
- ④ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

出席状況（30%）と期末試験（70%）による総合評価。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。